協力隊通信

COMMUNITY-REACTIVATING COOPERATOR SQUAD

EXPRESS DELIVERY

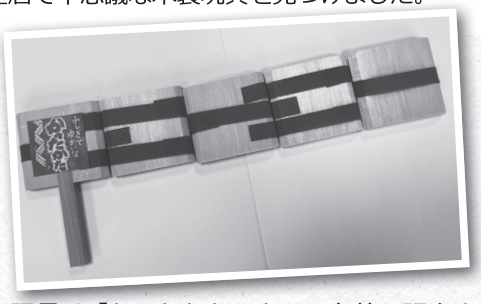
着任のご挨拶



11 月から天塩町地域おこし協力隊（酪農分野・第三者経営継承型）として着任いたしました、大阪府出身の菊山蒼太（きくやま・そうた）と申します。北海道帯広農業高校を卒業後、日本の牧場で 1 年間勤務した後、ニュージーランドで酪農を 1 年間学んできました。これまでの国内外での牧場勤務を通じて学んだ知識や経験を活かし、天塩町の酪農の発展に貢献できるよう努力していきたいと考えています。また、地域の皆様との交流を大切にしながら酪農経営についてさらに学び、将来的には地域に根差した酪農経営を目指していきたいと思います。まだまだ未熟ではありますが、一生懸命取り組んでまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

不思議な玩具「かったかた」

協力隊の前川です。先日、小樽へ旅行に出かけた際、お土産店で不思議な木製玩具を見つけました。



その玩具は「かったかた」という名前で販売されていました。一見すると、紐でつながれた木の板が重なっているだけの単純な作りですが、一番上の板を裏返すと、それに続いて次の板、そのまた次の板と順番に裏返りながら落ちていきます。

気になって調べてみると、この玩具にはさまざまな呼び名があることが分かりました。現在では「ぱたぱた」という名称が最も一般的に使われているようですが、江戸時代には「かくれ屏風」や「団十郎のからくり」と呼ばれていたそうです。また、近代になると「ぺたくた」や「ぺこたん」などの名称でも親しまれていました。そこからどのような経緯で「ぱたぱた」や「かったかた」という名称に変わっていったのかまでは調べきれませんでしたが、その長い歴史の中でさまざまな呼び名が生まれたことがうかがえます。

購入した玩具を本山協力隊に見せたところ、「子どもの頃に遊んだ記憶がある」とのことでした。私にとっては初めて出会った玩具でしたが、世代によっては懐かしい玩具でもあるようです。

このような昔ながらの玩具には、実際に手に取り、自分の目で動きを確かめる楽しさがあります。小樽で偶然出会った小さな木のおもちゃでしたが、その背景には日本の伝統玩具文化の歴史が隠されていました。旅行先での思いがけない発見から、昔の人々の知恵や遊びの文化に触れることができた出来事でした。

雪の季節になりました

こんにちは、地域おこし協力隊の小林･佐久間です。あっという間に雪の季節になりましたね。慣れない雪道の運転に苦戦しながら、安全運転を心がける毎日です。

今月は、旧啓徳小学校の活用に向けて少しずつ進んでいる取り組みをご紹介します。

①学校に足を運んでもらえるイベントを計画中！

現在、校内の清掃を進めています。きれいになった校舎を、皆さんにも見ていただける機会をつくりたいと考えています。そこで、まだ計画段階ですが、来年の夏前を目標に、旧啓徳小学校でのイベント開催を考えています。子どもから大人まで楽しめる一日にしたいと思っています。初めてのことばかりですが、学校に再び人が集まるきっかけになればうれしいです。詳しい内容が決まりましたら、改めてお知らせします！

②雄信内地区懇談会に参加しました

10 月 27 日、雄信内地区懇談会に参加しました。旧啓徳小学校をこれからどう使っていくか、地域の皆さんのご意見や、学校への思いを伺うことができました。これからも、皆さんの声を聞きながら進めていきます。「学校でこんなことをやってみたい」「こんな場所になったらうれしい」など、ぜひ気軽にお話しください。計画中のイベントでも、学校のこれからについて、皆さんとお話しできる場をつくりたいと考えています。

この他にも進めていることはまた報告します。

寒さが厳しくなってきましたので、皆さんも暖かくしてお過ごしください。

引き続き、よろしくお願いいたします！

